

2015年 4月20日
株式会社ブックウォーカー

大江千里『9番目の音を探して 47歳からのニューヨークジャズ留学』 HMVエソラ池袋のサイン会でピアニカ路上ライブ復活?

ポップミュージシャンからジャズピアニストへ転向した大江千里著の新刊『9番目の音を探して 47歳からのニューヨークジャズ留学』(発行:ブックウォーカー/発売:KADOKAWA)の発売記念サイン会がHMVエソラ池袋で発売当日の4月17日行われた。留学していたニュースクールでトリオを組んだことのあるバイオリン奏者の藤ミチ(ジュニア・マンスバンドに参加)が飛び入りし、同著のカバーを再現するように急遽路上ライブが復活。大江千里はピアニカで参戦し、場内は熱気であふれた。演奏したのは、デューク・エリントンの「Take the “A” Train(A列車で行こう)」。なお、大江千里は4月18日～5月6日まで、ブルーノート東京などライブツアーを行う。



撮影:大川晋児

サイン会ライブの動画は <https://youtu.be/ic-BmAJ9wqA>
 ツアー情報は <http://www.peaceneverdie.com/index.html>
 書籍情報は <http://www.kadokawa.co.jp/product/321502000149/>

2008年、47歳の時に今までのキャリアをすべて捨て、愛犬と一緒にニューヨークの音楽大学・ニュースクールへ留学した大江千里。同著は、渡米から卒業までの4年半の音大生活を電子書籍レーベル【カドカワ・ミニッツブック】で24回にわたって連載し、単行本としてまとめたものだ。20代のクラスメイトに「ジャズができていない」と言われ、クラス分けのテストに寝坊をし、がむしやりに練習すれば肩を壊し、自信喪失する日々。しかし、ジャズレジェンドの教授たちに触れ、仲間を励まされ、ジャズの、音楽の喜びを手に入れていく過程が綴られている。ポップミュージシャンからジャズピアニストへ。勇気と努力の心ゆさぶられるリアルストーリー。帯文は「のだめカンタービレ」作者・二ノ宮知子さん。

これはまるで” のだめ ”だ(笑)——二ノ宮知子(漫画家)

発売日:2014年4月17日
 定価:本体1800円(+税) ※電子版は5月初旬配信予定
 発行:株式会社ブックウォーカー 発売:KADOKAWA
 体裁:四六判ソフトカバー 368ページ

目次

■ 9th Note

- Bb 憂鬱のはじまり。
- Eb 痛み分けはジャズの味
- Ab ジャズ学校の異邦人
- Db ジャズに焦りは禁じ手か?
- Gb ジャズをひと休み。陽はまた昇る
- B 秋学期よ、こんにちは
- E 双子のフェニックス
- A ニューヨークにいる亀
- D キンモクセイの咲く頃に 上
- G キンモクセイの咲く頃に 下
- C 長いトンネルを抜けて
- F 9番目の音に誘われて

■ 13th Note

- Bb7 それは憂鬱などではなく…
- Eb7 スマールワールドとモーニング息子。
- Ab7 ホームタウンと20ドル
- Db7 サンドイッチとビバップ
- Gb7 ハイジの国から来た男。
- B7 6つの種から始まった



- E7 リユニオン。再会を夢見て
 - A7 帰り道はいつも寄り道。
 - D7 Stage Fright (舞台恐怖症)
 - G7 未来を箇条書きにしてみると
 - C7 宿題引き受け株式会社
- データ&インデックス

大江千里■1960年9月6日大阪生まれ。NYの音楽大学ニュースクール卒業後、オリジナルジャズアルバム3枚をリリース。現在は米国内を中心に積極的なライブ活動を展開中。

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社ブックウォーカー 編集部

Tel: 03-5216-8310 **Fax:** 03-3238-5725 **Mail:** info@minutesbook.jp